



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和6年3月15日

第11号

「守・破・離」

校長 櫻井 弘

現在もそうですがこれからはさらに、生徒が個々にタブレットパソコンを活用して調べ、調べたことについて仲間と共有したり、議論をしたりしてまとめ発表する。そして、その結果から課題を見つけ深めていく学習方法が重要となり、学ぶ過程では、生徒それぞれのやり方や進度を大切にすること、仲間との協働により多様性に気付き視野を広げたり、自分と違う考えを許容したりすることが求められます。日本では以前から、特に武道の修行などにおいて、「守・破・離」という学び方が大切であると言われてきました。

「守・破・離」とは、千利休の訓をまとめた『利休道歌』にある、「規矩作法 守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」を引用したものとされています。修業（学習）に際して、まずは「守」の段階として、師匠（教師や教科書）から教わった型（やり方・内容）を徹底的に「守る」（身に付ける）。そして「破」の段階では、師匠の教えに従って修業・鍛錬を積み（試行錯誤しながら学習を工夫したり繰り返したり）して、その型（やり方・内容）を身に付けることで、師匠の型はもちろん他流派の型なども含め、それらと自分（学んだこと・興味を持ったこと）とを照らし合わせて研究する（深める）ことにより、自分に合ったより良いと思われる型を模索し、試すことで既存の型を「破る」ことができるようになる。そして「離」の段階では、さらに鍛錬・修業を重ね、かつて教わった師匠の型と自分自身で見出した型の双方に精通し、既存の型に囚われることなく、言わば型から「離れ」て自在（自由な発想や個性を生かした取組）となることができる。

また「本（基礎・基本）を忘るな」とある通り、教えを破り離れたとしても、根源の精神を見失ってはならないということが重要であり、基本の型を会得しないままに、いきなり個性や独創性を求めるのはいわゆる「形無し」であると言っています。

（出典：ウィキペディア（ ）内の語句は、授業をイメージして原文に追記したものです。）

学校では、この主体的な学びのスタイルを確かなものとしていくために、生徒が「失敗したら恥ずかしいな」とか「みんなが見ているから」とか「苦手なことを知られてしまうから」などと考えず、思い切って挑戦できるように、「心理的安全性」が保障された環境「多様性についての考え方」や「共生を実現していく集団作り」を大切にしていきたいと思います。

保護者の皆様には、今年度も本校へのご理解・ご協力・ご支援ありがとうございました。今後も全石中生が充実した中学校生活を送り、人間的に成長する機会が多くある学び舎であり続けることができますよう引き続きよろしくお願い申し上げます。

令和6年度人事異動の発表について

東京都教育委員会より、3月18日に令和6年度人事異動について発表され、翌19日の新聞等で報道される予定との通知がありました。これは、生徒と教員のお別れの機会を年度内に設定するとの理由により、昨年度からこの時期に発表されています。これを受けて本校では、例年4月末に行っていた離任式を3月22日（金）1校時に実施することを予定しています。

離任する教職員については3月19日発行の学校だより（人事異動号）でお知らせいたします。22日の離任式は、3年生にとっては卒業式（3月19日）後となりますが、参加できる人は登校してほしいと思います。（任意の参加です。）詳細は後日お知らせします。